



ROTARY INTERNATIONAL

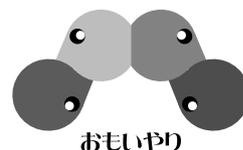
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO.2650



CHOHEI HASHIMOTO

ABS BUILDING
ANEKOJI KAWARAMACHI HIGASHI NAKAGYOKU
KYOTO, JAPAN



No. 12 June 1, 2008

ガバナー月信 第12信 (平成20年6月1日)

第2650地区 ロータリークラブ

国際ロータリー 第2650地区ガバナー

会長・幹事・みなさまへ

橋本長平

●ロータリーの精神を大切に●

岐路に立つクラブ自治権

ロータリークラブには、大幅な自治権があります。こんなことを今更、といいかねない方も多数いらっしゃることは、私も承知の上でのことであります。そういう人達が多いうちは、ロータリーも、健全であります。しかるに、最近の勢をみていると、呑気にしていられない状態であることも事実です。

ガバナーとなって、始めて知ったことですが、地区内のクラブから、自分のクラブの組織について、よく問い合わせを受けました。「この委員会は、置かなければいけませんか。」「この委員会を格下げしてもよろしいでしょうか」「こういう特殊な委員会を作ろうと思いますが、ガバナーは認めてくれますか」等々挙げたらキリがありません。結論から先に申し上げますと、そんな相談に対してはガバナーとして返事のしようがないということです。「どうか、それは、御自分のクラブで考えて、よいと思えば、そういう風にしたらいし、良くないと思えば、今まで通り御自由にやって下さい。」としか返答のしようがないからです。ガバナーがそのようなことに口を挟む権限は全く御座居ません。何故なら、クラブがあってからこそそのRIであり、RIはクラブから、特別に権限の委譲を受けた事項以外については、RI及びその出先機関たるガバナ

ーが、口を挟むことは、歴史的にみても、論理的にみても、全く許されていないことであるからです。ロータリークラブは、草の根の運動なのであります。決してトップダウンの組織ではありません。ロータリークラブには、独自性が必要です。クラブによって、皆違った顔をもっているのが当たり前なのです。これが、今日まで、4人に始まり、全世界で120万人を越すに至ったロータリーの原動力であったのです。もし、トップダウンだったら、ロータリークラブは既にこの世の中に存在していなかったと思います。

どうか皆様、クラブのことは、クラブの自治権に従って、自らお決めになってください。自治権をなくしたクラブは最早、ロータリークラブと言えないからです。よくDLPはCLPを支援すると言いますが、そんなことはありません。DLPは地区に適用されるものであります。CLPは採用されたクラブにしか存在せず、地区に適用されるDLPが採用クラブにのみ存在するCLPを他のクラブにおいて偏頗的に支援することは、地区の任務を投げ出すことになるからです。RIの出張所(出先機関)みたいなどころである地区は、RIの命令に従って、DLPにやむなく従いました。しかしこれは地区のリーダーシッププランでありま